

議題 1. 2024 年度事業報告 概要

2024 年度に計画された事業への取り組みについて、概要を以下にまとめた。詳細は資料でご確認いただきたい。

- ・ 総務会では、第 95 回（2024 年度）総会の開催、第 96 回（2025 年度）総会の準備、地区会事務局連絡会議、委員会委員長会議、地区会への理事出席など定例の事業を進めたほか、オンラインで議決権の行使が可能なシステムの検討、奨学基金の使い方について検討、中期財政計画の検討などに取り組んだ。現状の役員選出方法については、評議員会から会長に答申があり、それを踏まえ、今後の理事会の対応を協議した。
- ・ 総務会管轄の医書電子化検討ワーキンググループでは、日本医書出版協会との懇談を継続し、電子書籍の出版や契約の動向について意見交換した。
- ・ 総務会管轄の著作権問題検討ワーキンググループでは、著作権に関する内規を改定したほか、協会著作物へのコピーライト表記のためのガイドライン作成の検討を進めた。
- ・ 総務会管轄の国際交流ワーキンググループでは、米国医学図書館協会の年次大会に委員を派遣し、相互交流は依然有効であることを確認した。韓国医学図書館協会とは人的交流を 2025 年度から戻す方向で調整を図った。台湾医学図書館学会とは交流するための協定を締結した。
- ・ 企画・広報委員会では、ウェブサイト更新、第 95 次（2024 年度）会員統計の集計と公開、重複雑誌交換、国立国会図書館への寄贈資料送付に取り組んだ。
- ・ 機関誌「医学図書館」編集委員会では、「医学図書館」4 号を定期刊行した。また J-STAGE を使った本誌電子化の検討を始め、バックナンバーの電子化を決めた。
- ・ 出版委員会では、新規出版物の発行はなかったが、今後の出版物の検討を進めた。
- ・ 学術情報コンソーシアム委員会では、JPLA と合同で 19 社 80 件の提案を獲得した。昨年度に引き続き、転換契約や購読ジャーナル分析ツールなどの新しいタイプの提案も受けた。9 月には、JPLA と合同でコンソーシアム説明会を北里大学白金キャンパスで開催した。
- ・ 教育・研究委員会では、JMLA コア研修、JMLA 学術集会、図書館総合展フォーラムをオンラインで開催した。研究助成・海外研修助成への応募はなかった。医学中央雑誌刊行会受託事業費で、動画「初級から中級、それ以降も使える医中誌 Web・PubMed の検索テクニック」を作成、公開した。
- ・ 医療・健康情報委員会では、「医療・健康情報ブックリスト」の正式運用を開始した。また 2025 年 2 月に全国患者図書室の実態を把握するためのアンケート調査を実施

施した。

- ・ 認定資格運営委員会では、予定どおり 2 回の申請募集を行い、合計 24 件の申請について認定審査・認定した。また今後の認定資格のあり方を考えるためのアンケート調査を実施した。
- ・ 受託事業委員会では、受託事業を推進した。診療ガイドラインワーキンググループでは 24 件のガイドラインを新規に受託した。ワーキングメンバーが Cochrane Library を利用できるよう契約した。診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループはオンラインでワークショップを 2 回開催した。医学中央雑誌刊行会受託事業については、教育・研究委員会と相談し、E ラーニング動画「初級から中級、それ以降も使える医中誌 Web・PubMed の検索テクニック」を作成した。
- ・ 協会賞・奨励賞選考委員会では、2024 年度受賞候補の選考を行った。協会賞・奨励賞の受賞者一覧の英語版を英文ウェブサイトから公開した。
- ・ 組織・制度委員会では、「台湾医学図書館学会との連携合意文書」「コピーライト表記に関するガイドライン」の制定作業、「著作権に関する内規」「アンケート調査実施に関する申合せ」「アンケート調査結果の保存・公開に関する要領」の改定を行った。
- ・ 病院部会では、定例会と見学会（東京都医学総合研究所図書室、医学中央雑誌刊行会）を開催した。

議題 1. 2024 年度事業報告

I. 理事会

1. 委員

阿部 潤也（東歯大）、加藤 砂織（東女医大）、城山 泰彦（順大）、児玉 関（専務理事・個人）、小林 晴子（個人）、小松 康宏（会長・個人）、佐藤 晋巨（聖路加）、平 紀子（個人）、田口 宣行（埼玉大）、富田 麻子（日医大中）、阿部 京子（監事・北里白）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- 第 1 回 4 月 19 日（Web 開催）
- 第 2 回 6 月 4 日（Web 開催）
- 第 3 回 7 月 25 日（対面・Web 開催）
- 第 4 回 10 月 28 日（対面・Web 開催）
- 第 5 回 2 月 26 日（対面・Web 開催）

2) 事業達成状況

- (1) 2024 年度～2027 年度重点事業（案）を策定、第 95 回総会に提案し承認を得た。
- (2) 第 95 回（2024 年度）総会を 2024 年 5 月 24 日に北里大学大村記念ホール（東京都）で開催した。出席者は 173 名（内、書面表決書 145 名）だった。前年度第 94 回総会と同様、交流会は開催せず、企業展示は動画によるプレゼンテーションのみとした。分科会はライブ形式によるオンライン開催としたため総会とは連続した日程にはせず 9 月 27 日に開催した。テーマを「医学情報資源の収集と提供：現状と課題」とし、齊藤史氏、榎孝浩氏（国立国会図書館）に「医療・医学情報に関する国立国会図書館の取組」について、藤江雄太郎氏（大阪大学附属図書館生命科学図書館）に「外国雑誌センター館の現状と課題：今後の在り方の検討に向けて」について、それぞれご講演いただいた。当日の参加者数は 88 名（JMLA・JPLA 会員 70 名、非会員 18 名）だった。
- (3) 第 96 回（2025 年度）総会の開催を計画した。2025 年 5 月 22 日に日本教育会館（東京都）で開催することとし、コロナ以前のように、企業展示、交流会を企画。また分科会を翌 5 月 23 日に開催する方向で準備を進めた。また総会及び分科会の模様をインターネットでも配信できるよう合わせて準備した。
- (4) 2024 年度地区会事務局連絡会議を 12 月 11 日に開催した。各地区での地区会総会や研修会の開催状況について報告があった。第 95 回（2025 年度）総会をコロナ以前の形式に戻すため、各地区会から協力員を派遣してもらえよう願った。
- (5) 委員会委員長会議を 1 月 23 日に開催した。各委員会から今年度の取り組みについて報告があった後、出席者で懇談した。非正規職員による JMLA 事業への参加や公共図書館との連携などが話題に上がり、意見を交わした。
- (6) 韓国医学図書館協会（KMLA）との交流を検討した。2024 年度の KMLA 秋季シンポジウムに専務理事による挨拶動画を送った。2025 年度からコロナ以前と同じように人的交流を再開させることで合意し、まずは第 95 回（2025 年度）総会に来賓として招待することを決めた。
- (7) 地区会会議に理事が出席した。
 - 5 月 30 日 近畿地区会（田口理事、谷澤事務局長）
 - 11 月 13 日 中国・四国地区会（城山理事、宇佐見主任）

12月13日 近畿地区会（佐藤理事）

- (8) 関連団体との連携として、全国医書同業会新年互例会挨拶、KMLA 秋季シンポジウムへの挨拶動画送付など、総務会が協力して対応した。国立国会図書館長が交代されたことから、5月のMLA大会に国際交流WG委員を派遣、コロナ以降交流が若干希薄になっていたのを、相互の窓口担当や交流の継続などを確認した。10月に国立国会図書館を訪問し、倉田敬子館長と面談、医学図書館が抱える課題などについて意見交換した。12月に、かねてより誘いのあった台湾医学図書館学会（TMLA）との間で協定を締結した。
- (9) 2027年の協会創立100周年記念事業に向けて「100周年記念誌発行」「記念式典開催」といった定番イベントのほか、「館長会議の開催」「MLA、KMLA、TMLA担当者による分科会」「図書館団体関係者によるシンポジウム」「MLAから講師を招いての対面特別講義」「図書館見学ツアー」「100周年記念サイトの開設」などのアイデアが出された。今後、実現可能性を検討する。
- (10) 総会等で提案された議案に対し、オンラインで議決権が行使できるオンライン表決システムの開発を進めた。第95回（2024年度）総会で評価版システムにより疑似的に議決権を行使し、問題点の洗い出しを行った。第96回（2025年度）総会での本番運用に向け、改良版オンライン表決システムの開発を進めた。
- (11) 奨学基金の使い方を検討する。

財政面における奨学基金のあり方について検討を行ったが、海外の図書館から学べることは多いという意見に基づき、会員への助成機会の継続的広報によって申請促進をはかることとなった。
- (12) 中期財政計画を検討する。

中期財政計画は、コロナ禍以降支出が安定しないことから、検討を保留している。2024年度予算は各委員会からの予算申請を基に、必要と思われる経費をすべて盛り込み、約9,400千円の赤字予算を設定し、支出の動向を観察した。決算をみると支出は予算に対して約6,300千円少なくなっており、事業計画と執行とが依然かみ合っていないことがわかった。今後は予算に近い支出ができるよう、未執行の原因を調査することにした。
- (13) 2023年度に会長が評議員会へ諮問した役員数及び役員選出方法の見直しの要否について、協会事業精査のうえでの役員数見直しが望ましいとの答申があった。これを受けて理事会で今後の対応の検討を始めた。
- (14) 業務精査と合理化、事業の見直しについて検討を行ったが、業務精査と合理化は評議員会からの答申でも「事業精査」が示されたので、評議員会からの答申への対応の検討に含めて引き続き検討することとした。事業見直しについては、近畿地区会から提案のあった「委員会活動の抜本的見直し」の一環として行った委員会、WGメンバーへの負担に関するヒアリング結果を参考に現状把握をした。見直しについては、評議員会から答申のあった「事業精査」の中で合わせて行うことにした。
- (15) 地区会研修助成費の見直しを検討した。2022年度地区会事務局連絡会議での近畿地区会からの指摘を受けて、暫定的に1地区会あたりの予算上限を10万円とし、使途は継続教育コースに登録できる研修に限定しないこととして運用、2024年度実績を参考に見直すことにしていたが、2024年度において、地区会研修助成費が5万円を超える支払いはなかった。しかし近

年の物価の高騰を考慮し、1 地区会あたりの予算上限を 10 万円とすることにした。また使途については、継続教育コースに登録できる研修に使われることが望ましいが、限定はしないことを正式ルールに決めた。なお 1 地区会あたりの予算上限を 10 万円にすると、予算に 80 万円を計上しなければならなくなるが、執行されないと余剰金が増えてしまうことから、予算は従来通り 40 万円とし、執行額が 40 万円を超えた場合に翌年度予算を見直すこととした。地区会研修助成費の運用については規程がなかったので、地区会規程に盛り込むこととし、2025 年度改定を目指すこととした。

- (16) 2022 年度に近畿地区会から提起された「委員会活動の抜本的見直し」「会費の見直し」に関する要望について検討した。委員の負担について各委員会でヒアリングを行う形で調査を行った。その結果について精査し、今後の対応を理事会で検討した。「会費の見直し」は JMLA の財政に影響を及ぼすことが考えられるため、まずは「委員会活動の抜本的見直し」を検討し、「委員会活動の抜本的見直し」が一定の成果を挙げ、JMLA の体制が安定した時に検討することとした。また評議員会から答申のあった「事業精査」は「委員会活動の抜本的見直し」を含むと解釈できることから、「近畿地区会からの協会事業見直しに関する要望を検討する」を今後は「事業精査」として理事会の検討議題にする。

- (17) その他、理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。

3. その他

- 1) 台湾医学図書館学会との間で協定を締結した。目的は、協力、連携、効果的なコミュニケーション、相互の便宜などとした。協会の活動を、それぞれの機関誌またはウェブサイトで報告し合うことになった。
- 2) 12 月 20 日に評議員会が開かれ、会長が 2023 年度に諮問した「現在の日本医学図書館協会の役員定数および選出方法を見直す必要があるかについて」の答申が行われた。

4. 今後の課題

- 1) JMLA 役員・委員の担い手を増やすための取り組みを行う
- 2) 事業精査を行う
- 3) 地区会研修助成費に関する内規を策定する

5. 事業別報告

1) 医書電子化検討ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 城山 泰彦 (順大)

委員 磯本 善男 (個人)、児玉 関 (個人)、小林 飛鳥 (個人)、

田口 宣行 (埼玉大)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

- ① JMPA (日本医書出版協会) との懇談 (12 月 9 日 : 南江堂)

- ・双方があらかじめ用意した議題について、意見交換をおこなった。
- ・JMLA からの投げかけは、JMPA のサービス、著作権、電子製品の契約、電子書籍への意見、患者向けのオンライン医療情報の提供であった。
- ・JMPA からの投げかけは、障害者対応、電子サービスの利用実態、電子書籍購入予算の傾向、来館者数の変化、図書館員の役割の変化、他団体との交流機会であった。
- ・出版社と図書館とが意見交換する場として、出版社の考えを図書館に紹介すること、また図書館の現状や取り組みを出版社に説明することに、役立つ機会となっている。今後も年 2 回程度の、懇談の機会を継続していく。

(3) その他の報告事項

なし

(4) 今後の課題

- ① JMPA 及び出版社との意見交換の継続
- ② 電子コンテンツや医学書を取りまく環境等に関する意見交換
- ③ 「医書.jp eBook アラカルト」に関する、JMLA からの要望の対応確認

2) 著作権問題検討ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会
 グループ長 阿部潤也（東歯大）
 委員 金谷直樹（札幌大）、田中愛子（旭医大）
 オブザーバー 児玉関（専務理事・個人）、谷澤滋生（事務局長）、宇佐見由美（事務局主任）

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第 1 回（2024 年 11 月 15 日）およびメーリングリストにより随時意見交換を実施した。

②総務会が行う著作権問題への対応と体制検討への協力

著作権に関する内規（著作物の全文転載に関する事項）を改定した。

著作権に関する内規の改定案（著作者による著作物の使用：著作物の提供可否に関する事項）および関連する書式案（著作権譲渡同意書（改定）、著作物利用許諾書（新規））を作成した。

協会著作物へのコピーライト表記のためのガイドライン作成の検討を進めた。

(3) 今後の課題

- ①著作権に関する内規改定（デジタル化された資料への対応等）
- ②著作物の管理方法検討
- ③会員への方針伝達、外部機関への情報発信
- ④その他、突発的に発生した事案対応

1) 国際交流ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会
 グループ長 佐藤 晋巨（聖路加）
 委 員 佐山 暁子（聖路加）、山下 ユミ（個人）
 アドバイザー 諏訪部 直子（個人）

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 2024年11月11日

第2回 2025年3月1日

②韓国医学図書館協会（KMLA）との連携

本会の年次総会へ KMLA 理事より挨拶動画の提供を受けた。

KMLA 総会へ本会専務理事から挨拶動画を提供した。

2025年度年次総会へ KMLA 来賓招聘準備を行った。

③米国医学図書館協会（MLA）との連携

交流再開のため MLA'24（2024年5月18日から5月21日・オレゴン州ポートランド）へ会員2名（理事1名、ワーキンググループメンバー1名）を派遣し MLA の国際交流を担当する分科会の委員長らと交流を行った。

交流継続のため MLA'25（2025年4月29日から5月2日・ペンシルベニア州ピッツバーグ）へ WG メンバー1名を派遣する準備を行った。

④台湾医学図書館学会（TMLA）との連携

交流を開始するための協定書の準備、締結式（オンライン）の開催準備を行った。

MLA'24 で TMLA の国際交流担当者らと交流を持った。

⑤英語での国際交流活動の情報発信

無し

⑥海外からの問い合わせ等への対応

無し

⑦会員に向けた協定関係のある協会等に関する情報提供

協定先との交流情報を「国際交流ワーキンググループ便り」として本会のホームページあるいは会員メーリングリストで発信

No.1 MLA'24 参加記録

No.2 MLA'25 演題募集開始

No.3 MLA'25 参加費用割引

(3) 今後の課題

ワーキンググループメンバーの増員

6. その他の実績

1) 会員の動向

入会

正会員個人 7人

維持会員 1機関（団体）

維持会員 3人（個人）

退会

正会員 A 日本大学図書館松戸歯学部分館
九州歯科大学附属図書館

正会員個人 10人

2025年3月31日現在の会員数

正会員 A 99機関

正会員 B 44機関

正会員個人 97人

協力会員 2機関

維持会員 14機関（団体）

維持会員 9人（個人）

2) 助成金

株式会社紀伊國屋書店

株式会社サンメディア

3) その他

資料の共同購入ほか

図書館年鑑 25冊 395,000円

磁気テープコンソーシアム 紀伊國屋書店：34,000本 三省堂書店：85,100本

Ⅱ. 企画・広報委員会

1. 委員

担当理事 阿部 潤也（東歯大）

委員長 黛 崇仁（東邦大）

委員 天野 いづみ（静岡赤）、川崎 かおる（岩医大）

ホームページ担当ワーキンググループ

藤沢 靖子（杏大医・グループ長）、鷹野 祐子（都医学研）、

水嶋 直子（順大）

会員統計担当ワーキンググループ

井上 俊子（神常盤）、梅内 美鈴（北里白）、徳江 紀子（国がん）

重複雑誌交換担当ワーキンググループ

唐橋 敦子（福島医大）

要覧担当ワーキンググループ

曾田 昌弘（関医大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 3月19日（オンライン開催）

2) 国立国会図書館への印刷版医学雑誌寄贈調査

(1) 第5回（2023年度）調査

3館から寄贈の申請があり、89冊が国立国会図書館へ寄贈された。

(2) 第6回（2024年度）調査

2025年2月3日に依頼した。

3) ホームページ

(1) ホームページ更新体制

中央事務局との協働により、遅滞なく対応できている。

4) 会員統計

(1) 第95次（2024年度）会員統計

完成版をホームページに掲載した。

5) 重複雑誌交換

(1) 第75回（2024年度）重複雑誌交換事業の実施

第1回（2024年9月18日～10月4日）、第2回（2025年2月12日～2月28日）で実施した。

(2) 第73回（2022年度）交換実績報告書

第94次会員統計（2023年度）とあわせて実施した。

6) 要覧

(1) 冊子体の発行

「要覧 2024-2025」（2024年度）の発行は見送られた。

(2) 「要覧 2018-2019」変更点のホームページ公開

冊子体発行以降に改訂された規程や名簿等は、組織・制度委員会とホームページ担当ワーキンググループにより、速やかに最新版を本会ホームページ上に掲載している。（冊子とホームページの掲載内容が異なる場合はホームページを優先）

7) 会員 ML と会員管理を兼ねたシステム

(1) 検討実施状況

委員会、事務局にて検討を行い、当会ホームページ委託業者よりシステムの提案を受け、見積取得を行った。

3. 今後の課題

1) 重複雑誌交換の関連団体との連携

重複雑誌交換の提供資料の集計方法が変更となり、リストが整備されるようになったことから、関連団体との連携について検討を行う。

2) 会員 ML と会員管理を兼ねたシステムの構築

会員全員にメールを配信することのできる会員 ML と会員管理を兼ねたシステムを構築する。

Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集委員会

1. 委員

担当理事 田口 宣行 (埼玉大)

委員長 浅野 泉 (個人)

委員 五十嵐 菊美 (東女医大)、石井 恵 (個人)、大野 圭子 (個人) [5月まで]、工藤 女恵 (個人)、菅 修一 (個人)、半澤 智絵 (個人)、百留 悦子 (埼玉大)、藤村 三枝 (滋医大)

編集協力委員 金谷 直樹 (札幌大)、照内 弘通 (東北大医)、相澤 まゆみ (市川崎病)、塩原 則子 (松歯大)、中島 ゆかり (一宮西病)、小堀 玲子 (兵庫医大)、足立 美和 (取大医)、水江 愛子 (福岡大医)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

なし

2) 「医学図書館」(年 4 号) の発行

(1) 定期刊行を維持した。

①71 巻 2 号 (2024.6.20) 特集「2023 年度の研究発表 (MIS38/学術集会) から」

②71 巻 3 号 (2024.9.25) 特集なし

③71 巻 4 号 (2024.12.20) 特集「第 8 回 JMLA コア研修」

④72 巻 1 号 (2025.3.20) 特集「NACSIS-CAT と NCR2018 : 目録知識のアップデート」

3. その他の報告事項

1) 都合により委員会を開催することができなかったが、企画検討などについてはメーリングリスト等で補完した。

2) 謝金の支払い条件の見直しに着手したが結論は次年度へ持ち越しとなった。これまでの会員/非会員での区別ではなく、記事区分に応じた支払いを検討している。

3) 編集作業スケジュールの適正化に注力し、年間を通して計画どおりに発行することができた。

4) 2019 年に断念した本誌電子化 (カレント分の J-STAGE への登録・公開) の再検討に着手した。

4. 今後の課題

1) 引き続き各委員の業務バランスを考慮して委員の増員を試みる。

- 2) 編集業務の省力化及び業務委託を検討する。
- 3) 過去に断念した本誌電子化を実現する。
- 4) 謝金の支払い条件の見直しを検討する。

IV. 出版委員会

1. 委員

担当理事 城山 泰彦（順大）
委員長 吉新 裕昭（獨協医大）
委員 榊原 佐知子（愛医大）、皆川 雅子（国医情）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 3月 3日（Web開催）
適宜、メール・メーリングリストにより、情報共有・審議等をおこなった

2) 出版について

今年度の出版物はなかった。販売中の書籍（わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド 第2版、図解 PubMed の使い方 インターネットで医学文献を探す 第8版）の増刷については、在庫状況を考慮し計画していく。

3. その他の報告事項

1) 新出版物の検討

検討を進めている。

2) 既刊出版物の改訂の検討

検討を進めている。

3) 販売方法追加の検討

冊子・電子とも新たな販売ルートを確保すべく、検討を進めている。

4. 今後の課題

1) 新出版物の検討

2) 販売方法追加の検討

V. 学術情報コンソーシアム委員会

1. 委員

担当理事 富田 麻子（日医大中）
委員長 田口 宣行（埼医大）
委員 江幡 歌奈子（東邦大）、鷹野 祐子（都医学研）、三浦 さと子（帝京大医）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 6月 3日（対面開催）
第2回 1月 14日（対面開催）

2) コンソーシアム提案交渉

日本薬学図書館協議会（Japan Pharmaceutical Library Association : JPLA）と合同で、保健・医療分野に特化した内容のコンソーシアム契約モデルおよびコンソーシアム契約価格に関して、出版社や版元と交渉を進めた。一部の製品については、大学図書館コンソーシアム連合（Japan Alliance of University Library Consortia for E-

Resources : JUSTICE) と合同で交渉をおこなった。提案は 19 社で、提案数は 80 件。内訳は、大学向け提案 68 件、病院向け提案 66 件、その他研究機関向け提案 42 件、企業向け提案 42 件であった(重複あり)。

3) コンソーシアム提案の充実

ジャーナルやブックだけでなく、転換契約や購読ジャーナル分析ツールといった新しい提案も含まれた。また、今後のコンソーシアム提案の在り方について提案社との意見交換を行った。

4) コンソーシアム説明会の開催

JPLA 学術情報コンソーシアム委員会と合同で、コンソーシアム説明会を東京で開催した。会場では、出版社・代理店担当者と会員が直接相談できるよう、出展ブースを設置した。併せてプレゼンテーション動画上映と、学術情報コンソーシアム委員による相談デスクを開設した。

2024 年 9 月 4 日(水) 北里大学白金キャンパス

参加者: 55 名(JMLA42 名、JPLA13 名) *実行委員を含む

参加企業: 19 社

*実行委員 10 名(JMLA45 名、JPLA5 名)(担当理事を含む)

5) 雑誌、電子リソースの契約等に関することについての活動

11 月 20 日に、病院部会と、「今後の JMLA コンソーシアムの病院向け提案」について協議した。

3. その他の報告事項

1) コンソーシアム説明会と提案に関するアンケートを正会員 A、B を対象に実施した。

2) コンソーシアム成立件数の調査を行った。

4. 今後の課題

1) OASE といった新たな交渉組織が誕生した中で、JMLA コンソーシアムの在り方を再認識して活動をしていく。

2) 委員が不足している現状で、提案各社との交渉や説明会をどう運営していくのかを早急に検討しなければならない。

VI. 教育・研究委員会

1. 委員

担当理事 加藤 砂織(東女医大)

委員長 西村 志保(日医大中)

委員 石田 綾子(岐大医)、大屋 玲奈(獨協医大)、菊地 元子(国病文献)

八木澤 ちひろ(滋医大)

JMLA コア研修ワーキンググループ

グループ長 角田 ともえ(東海大伊)

委員 塙 清楓(聖マ医)、平山 紀子(久大医)

JMLA 学術集会ワーキンググループ

グループ長 根本 萌(北大)

委員 井上 陽路(慈恵大)、廣瀬 瑛子(北里白)、

E-ラーニング作成ワーキンググループ

グループ長 大崎 泉(慈恵大)

委員 笹谷 裕子(杏大医)、清水 ゆかり(杏大医)、成田 ナツキ(個人)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

教育・研究委員会（すべて Web 開催）

第 1 回 5 月 21 日

第 2 回 7 月 16 日

第 3 回 10 月 8 日

第 4 回 10 月 21 日

第 5 回 11 月 18 日（図書館総合展リハーサル）

第 6 回 1 月 22 日

JMLA/JPLA 合同教育・研究委員会（Web 開催）

第 1 回 10 月 8 日

JMLA コア研修ワーキンググループ会議（すべて Web 開催）

第 1 回 10 月 22 日

JMLA 学術集会ワーキンググループ会議（第 4 回を除き Web 開催）

第 1 回 5 月 16 日

第 2 回 8 月 21 日

第 3 回 11 月 19 日（運営リハーサル）

第 4 回 12 月 2 日（全体リハーサル／対面・Web 併用開催）

第 5 回 2 月 28 日

E-ラーニング作成ワーキンググループ会議

第 1 回 5 月 28 日（Web 開催）

第 2 回 2 月 20 日（収録）

2) 第 8 回 JMLA コア研修開催

日程：2024 年 8 月 1 日（木）～8 月 21 日（金） 21 日間

形式：オンライン（オンデマンド）開催

受講者数：70 名（JMLA 42 名、JPLA 3 名、非会員 25 名）

- ・非会員の参加が増加傾向にあり、公共図書館をはじめ多岐にわたる

3) 第 8 回 JMLA 学術集会開催

日程：2024 年 12 月 13 日（金）9：20～16：40

形式：オンライン（ライブ）開催 Zoom ウェビナー

午前：研究発表 4 題（発表：事前収録動画のライブ配信 質疑応答：ライブ）

午後：CE コース システマティックレビューに取り組むための基礎知識／

文献検索演習中級 2024「医中誌 Web/PubMed」（ライブ配信）

※午前、午後とも質問は Zoom の Q&A 機能を利用

受講者数：82 名（JMLA 75 名、非会員 7 名）

研究発表 56 名（JMLA 53 名、JPLA なし、非会員 3 名）

CE コース 69 名（JMLA 63 名、JPLA なし、非会員 6 名）

- ・JMLA 学術集会プログラム・抄録（オンラインジャーナル）を作成し、公開した。

<https://jmla1927.org/publish.php?q=9286>

- ・オンライン開催版のマニュアルを整備し、会員向けに公開した。

4) 第 26 回図書館総合展イベント開催（JMLA/JPLA 共催 主担当：JMLA）

日程：2024 年 11 月 22 日（金）14：30～15：30

形式：オンライン（ライブ）開催 Zoom ウェビナー

テーマ：医学図書館員とキャリア形成・自己研鑽

講師：眞喜志 まり 氏（慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室特任助教）

山下 ユミ 氏（京都府立図書館）

柴田 大輔 氏（東邦大学医学メディアセンター）

申込者数：196 名 うち当日視聴 129 名（JMLA 83 名、JPLA 4 名、その他 42 名）

参加証明書発行：68 枚

- ・申込者限定で講演動画と資料を公開（2025 年 3 月末まで）

5) 助成募集

(1) 研究助成

2025年度の募集を行ったが、応募はなかった。

(2) 海外研修助成

2025年度の募集を行ったが、応募はなかった。

(3) その他

2022年度研究助成費受給者より「協会助成による研究の計画変更承認願ひ」が提出され、研究期間の延長が認められた。

6) JMLA-CE コース登録の実施

2024年度は、7件の申請を受け付け、審査後、認定資格運営委員会にポイント数を確認の上、JMLA-CEとして登録した。一覧を本会ホームページに公開している。

「JMLA-CE コース登録一覧」 <http://jmla1927.org/core.php?q=240>

7) E-ラーニングコンテンツの作成と公開

コンテンツ「初級から中級、それ以降も使える 医中誌 Web・PubMed の検索テクニック」を2025年3月に公開した（医学中央雑誌刊行会受託事業費により作成）。

VII. 医療・健康情報委員会

1. 委員

担当理事 児玉 関（個人）

委員長 岡田 光世（東邦大）

委員 赤石 知香（青森保健大）、及川 はるみ（聖路加）、折井 匡（個人）、中嶋 史栄（個人）、西 さやか（東医大）、渡邊 基史（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 7月 8日（対面&Web）

第2回 9月 5日（対面&Web）

第3回 11月 25日（Web）

第4回 2月 14日（Web）

2) 全国患者図書室実態調査の実施

- ・ 2023年より準備を進めてきた「全国患者図書室実態調査」を2025年2月1日～28日に実施した。
- ・ 調査対象は病床数200床以上の病院2393病院とした。調査対象の絞り込みには各地区厚生労働局の病院データを利用した。47都道府県分のデータを委員が分担して加工し、病院を絞り込んだ。
- ・ 回答しやすいようアンケートはGoogleフォームを使って作成し、オンラインで回答してもらう形式とした。
- ・ 回答率を上げるため、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本病院会に協力を打診し、承諾を得た。
- ・ アンケートの回答が458件あった。調査結果については2025年度以降に公開予定である。

3) 医療・健康情報リストの公開

- ・ JMLA 会員向けに試験公開していた「医療・健康情報リスト」を2024年6月より一般向け（会員以外にも）に正式公開した。
- ・ 試験公開中は名称を「医療・健康情報ブックリスト」としていたが、図書だけで

はなく雑誌やウェブサイトの情報も含むこととしたため、名称を「医療・健康情報リスト」に変更した。

4) 患者図書室おススメ資料紹介を活性化させる方策の検討

・ 2024 年度は着手できなかった。

5) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化の検討

・ 2024 年度は着手できなかった。

6) JMLA コア研修（コア 6）講師担当

・ 渡邊委員が担当し、無事に終了した。

・ 受講者 2 名から質問が寄せられ、委員会で相談のうえ回答した。

7) 医療・健康情報関連研修への講師派遣

・ 2024 年度は依頼がなかった。

3. その他

1) 「図書館年鑑」2025 年版執筆について

・ 日本図書館協会発行「図書館年鑑」2025 年版「館種別概況」のうち、病院患者サービスの概況（2024 年 1～12 月）について執筆依頼があった。

・ 病院患者サービス全体を俯瞰する内容を執筆するのに情報収集する必要があるため、日本病院ライブラリー協会に協力を求めて協同執筆することとなった。

4. 今後の課題

1) 全国患者図書室実態調査の集計、結果報告

・ アンケート回答を集計し、結果を報告する

・ アンケート結果から患者図書室支援策を検討する

2) 「患者図書室おススメ資料紹介」「医療・健康情報リスト」を活性化させる方策の検討

・ 各ページへの投稿が増えるよう方策を検討する。

3) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化の検討

・ 「患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化」に関する事業計画を検討する。

4) 患者図書室意見交換会の開催

・ 患者図書室の動向を把握するため、関係者による意見交換会を開催する。

VIII. 認定資格運営委員会

1. 委員

担当理事 小林 晴子（個人）

委員長 北川 正路（慈恵大）

委員 寺升 夕希（滋医大）、中島 裕美子（埼玉大）、
永田 治樹（筑波大学名誉教授）、橋本 郷史（東邦大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 9 月 26 日

第 2 回 3 月 26 日

2) 申請募集と認定審査

- (1) 第42回募集(2024年7月受付、9月認定)
審査件数: 7件(基礎6名、中級1名、上級0名)
認定件数: 7件(基礎6名、中級1名、上級0名)
- (2) 第43回募集(2025年1月受付、3月認定)
審査件数: 17件(基礎14名、中級3名、上級0名)
認定件数: 17件(基礎14名、中級3名、上級0名)
- (3) 資格取得者の現存数
第43回認定後 585名
(基礎570名、中級8名、上級7名)

3) 申請の促進

- (1) 関連団体への案内
 - ・関連団体機関誌、メーリングリストへの情報発信
 - ・ポスター、チラシの配布
- (2) 「ヘルスサイエンス情報専門員」ウェブサイトの更新
- (3) 促進グッズ(バッジ、クリアファイル)の活用
- (4) 申請予定者からの問合せへの対応

4) 各種イベントのポイントの事前確認

5) 「ヘルスサイエンス情報専門員(JHIP)の資格取得に関するアンケート」の実施

2025年2月27日から3月28日にかけて、今後の認定資格のあり方を考えるために、ヘルスサイエンス分野の図書館あるいはそれに準ずる施設での実務経験を有する方々を対象にオンラインによるアンケート調査を実施した。回答数は163件であった。結果については2025年度通常総会分科会等で共有予定。

3. その他の報告事項

- 1) ポイントの見直し、認定資格制度の評価についての意見交換

4. 今後の課題

- 1) 専門職能力開発プログラムの見直し
関連する委員会と協力し、情報収集や整理等を行い見直しに向けた準備を進める。

IX. 受託事業委員会

1. 委員

担当理事 佐藤 晋巨(聖路加)
委員長 佐藤 晋巨(聖路加)
委員 総務会兼務

2. 事業計画と年間目標の達成状況

- 1) 委員会の開催
 - (1) 委員会として会議を持たず、総務会で全体を統括した
 - (2) 各事業はワーキンググループを組織して活動した
- 2) 診療ガイドライン作成支援 診療ガイドラインワーキンググループ、診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ ※詳細は事業別報告を参照

3) 医学中央雑誌刊行会受託事業

- (1) 教育・研究委員会により E ラーニング動画「初級から中級、それ以降も使える
医中誌 Web・PubMed の検索テクニック」の作成を行った
(2) 2025 年度の受託事業について募集した

3. その他の報告事項

無し

4. 今後の課題

新規受託事業案と事業受託者の募集

5. 事業別報告

1) 診療ガイドラインワーキンググループ

担当理事 佐藤 晋巨 (聖路加)

グループ長 阿部 信一 (慈恵大)

委員 荒巻 なほみ (個人)、石井 恵 (個人)、柿田 憲広 (個人)、加藤 恵子 (国がん)、河合 富士美 (個人)、工藤 女恵 (個人)、小嶋 智美 (個人)、小林 飛鳥 (個人)、小林 晴子 (個人)、佐藤 正恵 (個人)、諏訪部 直子 (個人)、曾根 麻里 (静社健大)、寺澤 裕子 (個人)、成田 ナツキ (個人)、森正 智子 (昭和大)、山口 直比古 (個人)、山崎 むつみ (静岡がん)、山下 ユミ (個人)、吉原 理恵 (個人)、愛知医科大学総合学術情報センター (代表: 榊原 佐和子)、岩手医科大学附属図書館 (代表: 川崎 かおる)、大阪公立大学阿倍野医学図書館 (代表: 中橋 巧也)、杏林大学医学図書館 (代表: 藤沢 靖子)、慶應義塾大学信濃町メディアセンター (代表: 遠藤 泉)、滋賀医科大学附属図書館 (代表: 八木澤 ちひろ)、信州大学附属図書館医学部図書館 (代表: 滝口 智子)、東京慈恵会医科大学学術情報センター (代表: 阿部 信一)、東邦大学メディアネットセンター (代表: 大谷 裕)、奈良県立医科大学附属図書館 (代表: 大瀬戸 貴己) 【下線=リーダー】

(1) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

リーダー会 開催無し

ワーキンググループ会議 2025 年 3 月 13 日

②受託状況

目標受託件数 15 件のところ、24 件のガイドラインを新規に受託した (別表参照)。

③委員会関係文書の整備

クラウド・サーバへの掲載を進めた。

④検索体制強化の検討

課題となっていたリーダーを 1 名増員した。

Bunkan の改修を検討課題としたが着手に至らなかった。

⑤Cochrane Library の契約

Cochrane Library をワーキンググループのメンバーが利用できるよう契約した。

(2) 今後の課題

過去に受託したガイドライン等の情報共有をメンバー間で容易にする方法の検討

2) 診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 佐藤 晋巨 (聖路加)

グループ長 阿部 信一（慈恵大）
委 員 柿田 憲広（個 人）、笹谷 裕子（杏大医）、森正 智子（昭和
大）
リーダー 河合 富士美（個人）、山口 直比古（個人）、成田 ナツキ（個
人）

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 2024年7月18日
第2回 2025年1月8日
第3回 2025年3月3日

②ワークショップ開催方法の検討

2024年度オンラインでワークショップは2回開催することとした。E-ラーニン
グシステムを活用した。複数回開催する場合、開催時期の再検討が必要なことを
確認した。

③ワークショップの開催

講演会 2024年12月4日 10:00～11:00 Web 開催 参加者：39名（当日の
み）

ワークショップ

第1回 2025年1月10日 9:20～16:30 Web 開催 参加者：受講生15名、リ
ーダー：3名、運営者：4名
第2回 2025年3月6日 9:20～16:30 Web 開催 参加者：受講生10名、リ
ーダー4名、運営者：4名

④ワークショップ運営マニュアルとシラバスの更新

より適切な内容に更新した。

(3) 今後の課題

より参加しやすい開催時期の検討

別表

2024年度 受託診療ガイドライン実績一覧		
受託番号	ガイドライン名	学会名・依頼者所属名
GL2401	がんのリハビリテーション診療ガイドライン第3版	慶應義塾大学医学部リハビリ テーション医学教室
GL2402	膵・消化管神経内分泌腫瘍診療ガイドライン第3版	日本神経内分泌腫瘍研究会
GL2403	高齢者のがん薬物療法ガイドライン改訂第2版	日本臨床腫瘍学会
GL2404	限局性強皮症 診断基準・重症度分類・診療ガイド ライン	厚生労働科学研究費補助金難治 性疾患政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断 基準・重症度分類・診療ガイド ライン・疾患レジストリに関す る研究
GL2405	好酸球性筋膜炎 診断基準・重症度分類・診療ガイド ライン	厚生労働科学研究費補助金難治 性疾患政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断 基準・重症度分類・診療ガイド ライン・疾患レジストリに関す る研究
GL2406	硬化性萎縮性苔癬 診断基準・重症度分類・診療ガイ ドライン	厚生労働科学研究費補助金難治 性疾患政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断 基準・重症度分類・診療ガイド ライン・疾患レジストリに関す る研究

GL2407	感染性心内膜炎診療ガイドライン	日本循環器学会
GL2408	同時動注化学陽子線治療ガイドライン	日本放射線腫瘍学会(粒子線委員会)
GL2409	緩和的放射線治療診療ガイドライン	日本放射線腫瘍学会
GL2410	福山型先天性筋ジストロフィー診療の手引き	厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 難治性疾患政策研究「筋ジストロフィーの標準的医療普及のための調査研究」班
GL2411	蕁麻疹診療ガイドライン	日本皮膚科学会
GL2412	膵外分泌機能不全診療ガイドライン	日本膵臓学会
GL2413	大腸腫瘍に対する内視鏡切除ガイドライン	日本消化器内視鏡学会
GL2414	同種造血幹細胞移植患者に対する優先度の高い公的予防接種の再接種に関する研究	国立がん研究センター
GL2415	てんかん診療ガイドライン	日本神経学会
GL2416	高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン 第4版	日本痛風・尿酸核酸学会
GL2417	乳癌診療ガイドライン 2026年版	日本乳癌学会
GL2418	乳癌患者の妊娠・出産と生殖医療に関する診療ガイドライン	日本がん・生殖医療学会
GL2419	心疾患患者の妊娠・出産の適応、管理ガイドライン	日本循環器学会
GL2420	MASLD 診療ガイドライン	日本消化器病学会
GL2421	胃食道逆流症（GERD）診療ガイドライン	日本消化器病学会
GL2422	消化性潰瘍診療ガイドライン	日本消化器病学会
GL2423	産業保健理学療法ガイドライン	日本産業理学療法研究会
GL2424	大学における標準的な健診項目についてのガイドライン	国立大学保健管理施設協議会 健康情報標準化ガイドライン 2025 特別指定委員会

X. 協会賞・奨励賞選考委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子（個人）
 委員長 石井 保志（個人）12月で退任
 堀米 拓哉（日大歯）2025年1月より就任
 副委員長 石立 裕子（個人）2025年1月より就任
 委員 首東 誠（個人）、石倉直志（分大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 12月9日（於：中央事務局）
 第2回 2月6日（於：中央事務局）

2) 2024年度協会賞・奨励賞の選考

第2回選考委員会で候補業績を選考し、後日、理事会報告を行った。

3) 英文 HP 作成

英文 HP に掲載予定の受賞者一覧リスト「JMLA Best Paper Award - List of Winners (2001-)」及び「JMLA Award for Best Achievement - List of Winners (2001-)」を作成した。英文タイトル、抄録について、既存のものはそれを採用し存在しない英文タイトル、業績タイトルについては、複数の AI 翻訳ツールの活用により作成し、公開した。

4) 新委員の欠員補充について検討した。

3. 今後の課題

- 1) 委員の欠員補充
- 2) 協会賞・奨励賞のブランディング（受賞者の文献・活動について広報）
- 3) 選考ガイドライン及び規程の見直し

X I. 組織・制度委員会

1. 委員

担当理事	児玉 閲（個人）
委員長	土田 壮一（金医大）
委員	加藤 恵子（国がん）、森田 創平（北里医）
オブザーバー	加藤 晃一（千大図）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催（すべて Web 開催）

第 1 回 9 月 9 日

第 2 回 10 月 7 日

第 3 回 2 月 15 日（メール審議）

第 4 回 2 月 27 日

2) 本会諸規則の制定及び改定

以下の規程類の制定及び改定作業を行った。（現在作業中のものを含む。）

（1）制定作業

- ①台湾医学図書館学会との連携合意文書
- ②コピーライト表記に関するガイドライン

（2）改定作業（軽微な修正は除く。）

- ①著作権に関する内規
- ②アンケート調査実施に関する申合せ
- ③アンケート調査結果の保存・公開に関する要領

（3）その他

- ①著作権譲渡同意書について検討した（作業中）。
- ②著作物利用許諾書について検討した（作業中）。

3. その他の報告事項

改定された規程類については、最新版を本会ホームページへ掲載する。

4. 今後の課題

- 1) 諸規則の制定及び改定作業の迅速化を図る。
- 2) 規程全般に渡る整合性を確認し、体系化を図る。
- 3) 規程類の用語及び表記、並びに各種申請書の様式の統一を図る。
- 4) 総会での書面表決において会員からいただいたご意見に関し、検討する。

X II. 部会 病院部会

1. 委員

部会長 加藤 恵子（国がん）

委 員 泉 峰子（科学院）、春日井 泉江（名記念）、小林 飛鳥（個人）、
下山 朋幸（NCNP）、成田 ナツキ（個人）、濱野 淳子（高知医療）
[12月から]

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 幹事会の開催

第1回 6月28日 Zoom による Web 開催

第2回 10月18日 Zoom による Web 開催

第3回 1月17日 対面（東京都医学総合研究所図書室）

2) 定例会の開催

8月24日（土）

3) 見学会の実施

1月17日 東京都医学総合研究所図書室 医学中央雑誌刊行会

参加：会員12人

4) 研修会の実施

今年度は実施しなかった。

3. その他の報告事項

『医学図書館』の71巻3号の「広場」に、病院部会の活動紹介の記事「病院部会の活動」を執筆した。

近畿病院図書室協議会第18回交流会（50周年記念事業大交流会）に参加した。

（2024年11月3日）

学術情報コンソーシアム委員会と、合同会議をおこなった。（2024年11月20日）

参加は、加藤部会長、小林幹事、城山理事

4. 今後の課題

- 1) 研修会、見学会の実施
- 2) 幹事の補充